

蔵出しお宝ニュース

— 第 48 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

社会体験学習を実施

平成 27 年 1 月 26 日（月）から 1 月 30 日（金）までの 5 日間、広島大学附属三原中学校 2 年生が働くことの意義や、将来自分の就きたい職業について考える「わくわく WORK みはら 2014」が三原市内及び近隣の事業所・団体で実施されました。本年度より、当館も開催場所に加えさせていただきたいとのご依頼を受け、快諾いたしました。



当館では、将来学芸員になりたいという 2 名が体験をしました。午前中は解説専門員による初歩の古文書、拓本の実習、館内清掃や来館者への対応を学ぶ“おもてなし”についてなどを身に付けていきました。午後からは古写真パネルの整理や三原神明市展の準備などを進めていきました。

初日・2 日目あたりまでは、何を目的とした作業なのかをあまり意識できていない場面もありましたが、後半からは各々が意識し、自分たちの考えを述べながら仕事を進めることができました。

三原神明市展では実習生のアイデアで、現在の神明市を撮影した写真を利用して、行事の魅力を伝えるコーナーを設けることができました。

この 5 日間の体験を、将来の進路を決めていく上で活かしていただければ幸いです。

（左）社会体験学習中の 1 コマ

文化講座「茶杓削り」を開催します

平成27年3月28日(土)に当館1階ロビーで茶杓削り教室を開催します。①9:30~11:30と②13:30~15:30で各10名募集いたしておりますが、午前はほぼ定員を満たしており、午後の席にいくらか余裕があります。



材料代は600円(保険代なども含む)で、小刀も資料館で用意しております。

茶道で抹茶を搦う時に用いる匙が茶杓です。古くは茶会のたびにお招きした客のことを思いながら亭主が自ら削ったものです。作者の心境が映り、竹の持つ景色・味わいが感じられる茶杓は茶道具の中でも特に珍重されています。

当館学芸員の山崎が講師を務めます。最初に茶杓の歴史と削り方を説明し、その後約1時間30分、実際に茶杓を削っていきます。

作業としては、あらかじめ割り竹を“く”の字に曲げてあるものを小刀で荒削りをし、紙やすりで形を整えていきます。失敗すると權先と呼ばれる抹茶を搦う部分が細くなってしまうため、慎重に削らなければなりません。

また、作者自身の心や教養が表れる大切なものとして、茶杓に付けられる「銘」があります。銘は茶道具の取り合わせにおいて大きな意味を持っています。

3月の銘では春風・若緑・菜種梅雨など、4月の銘では清明・暮春・夢見草など、季節を選ばないもので、禅語から取った洗心・流雲・無一物・無事などが付けられます。

この講座を通して日本が誇る伝統文化の一端と“おもてなし”の心を身近に感じていただきたいと思います。

受講を希望される方は三原市教育委員会文化課(TEL0848-64-9234)へご連絡ください。



(上) 大徳寺 藤井誠堂 書付
銘「好日」
左より共箱・共筒・茶杓

(下) 昨年度開催した茶杓削りの様子

発行 平成27(2015)年 3月25日
〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。